

んとケーキ屋さんで「作った」と書いたんです。

なんとということは、言葉のようではないが、僕らだけでは出てこないですよ。他の人の感性を取り入れながら、東川を理解してもらって、来る人を増やしていくのが元気になる秘けつかなと思います。



高島 シフォンケーキ販売の時にやったことは、ただ「シフォンケーキです。東川産の米粉で作りました。おいしいですよ、食べてください」と言っても誰も買ってくれない。そこでマスクミに話をしたんです。

渡辺 その点は家具も少し似ていてまして、お客さんはそのプロセスを知りたがる。知ることによって新たな付加価値が付いて、ちょっと高いものでも、こういう産地のもの、こういう高品質のものでと納得する。それがまた良いものを作っていくという励みにもなる。

牧 僕は生産者なので、口に乗んでもらえないと評価を得られない、というのが大前提にある。どんなに「うまい米だ、安全、安心だ」と言っても、食べてもらえないと評価してもらえない。自己満足だけでは、そこから伸びないと思います。

「大雪山の山に雪が降り積もって、それが溶けて片や伏流水、片や忠別川に流れ込んで、一番最初に東川の田んぼにたどり着く。そこにはおいしい米を作ろうとしている農家の人たちがいて、丹精込めて作られた米を粉にして、その米の特長を生かして作ったお菓子です」と言うと、同じものでも食べてくれる。

松岡 上川地方は南北220キロぐらい、本州の一つの県に匹敵するくらい大きいんです。

日本の首都は東京ですが、生活文化の首都があってもいいし、スポーツの首都があってもいい。お米の首都や家具の首都があってもいいと思うんです。

真の学校」ということを進めていて、校内に写真がいっぱい張り出しているんです。大人より感性があり、すばらしい写真がいっぱいある。学力を上げるだけが教育ではないと思うんです。特色のある教育をしてくれる環境がしっかりと整ってくれることが大事ではないかと思っています。

高島 子供たちにとって大切なことは、自分がない世界に接すること、社会見学や体験することが必要だと思っています。

そして、若かったころに先輩から教えてもらったことですが、感性ということです。

感じる事ができるか、できないか、ということはずごく重要で、さらに感じたあとに工夫をして、それを実行できるか、できないか、ということが大切です。

を見てきれいだなと感ずることが出来て、さらにこうなればもっときれいだな、と感ずることが出来る人です。

その人たちは、さらに実際にそうやって見る人と、やってみない人に分かれます。それがすべてのような感じがします。



高島 郁宏(いくひろ)さん

パティシエ。洋菓子舗「>月庵」経営。1962(昭和37)年生まれ、45歳。東川町出身。道立東川高校卒。
小樽市内の老舗洋菓子店でケーキ作りを学びました。その後東京・世田谷区内の洋菓子店、同豊島区内のチョコレート専門店にて修行。27歳で帰郷しました。今年創業50年目を迎えます。3年前、父親の孝二さん(71)を継ぎました。町商工会理事、町観光協会理事、町土地開発公社理事。

そこで、上川地方で一つの大きな首都を作る。ミニ首都宣言か何かをですね。町はそれぞれ特産品を持っていますから、それを一カ所に集めて大きなモールショップみたいなものを作る。それを空港のどこかに作って、海外のお客様にも、国内のお客様にも、そこを通ってもらえるようにするということが実現できないかなあ：

首都宣言は、まだどこもしていませんから、写真の首都にするのか、お米の首都にするのか、家具の首都にするのか、そんなことも夢があると思いますね。

もう一つ、外から来てこの町を見る、という意識が必要ではないかということなんです。

外から来た渡辺さんのような方たち、牧さんにしても一度農業以外の仕事をしているし、高島さんも一度外に出て帰ってきている。外から町を眺める、外からの視点や刺激によって町が変わっていくということがあるのではないかと

思うんです。外から来た高校生や学生さんに「ここのお菓子がおいしかった、こうすればもっと良くなる」と提言をできる仕組みを考えていくこ

が1人というのは、あまり良くはないと思うんです。牧さんのお宅のように、3人くらいいいいと兄弟けんかをしたり、家庭内で競い合ったりすることで成長するのではないかと思うんです。

農村では以前はどこでも家畜を飼っていて、家畜と出合っ、そして別れる、ということがあったわけです。そういう時に人間として大切なことが分かってくるんじ



牧 清隆(きよたか)さん

農業。1970(昭和45)年生まれ、37歳。東川町出身。町内の開拓創成期に入植した富山県団体5代目。道立旭川農業高校卒。
高校卒業後、農機具会社に就職。営業、整備担当。平成9年に退社して家業の農業へ、3年前、父親の清さん(68)から経営委譲を受けました。昨年JA上川地区青年部協会会長に就任。現在、水稲15.3haを中核に、大豆3.4ha、みつば・えん麦各2.5haなどを栽培。

とも良いのではないかと思つています。帰りに際に提言を置いていってもらおうというのはどうでしょうか。

子供たちに恵まれた自然と豊かな感性をあげたい

渡辺 恵まれた自然の中で育つた子供たちと、コンクリートとアスファルトの中で育つた子供たちでは、感性のあり方が違うと思いません。

私は美術が好きで、美術と接してきましたが、自然に囲まれたところで教育を受けたり、良い風景を見たり、良い空気を吸ったりすることが子供にとってすごく大事だと思います。土の感触ですね。

こちらでは蝶々やトンボやカエルがたくさん出てきます。そういう所に子供がいると、自然を大切にしなければいけないという心を育んでいけるのではないかと思

牧 小6と小2の子供がいますが、実は12月に3人目が生まれたんですが、東川の自然の中のびのびと育ってほしい。第二小学校に通っているんですが、学校では「写

やないかと。兄弟けんかもそうです。けんかをすれば痛い、ということが分かってくる。そんな子供たちの環境にしたいですね。

皆さん、本日はどうもありがとうございました。2007年12月4日/役場2階 応接室

渡辺 主税(ちから)さん

(株)インテリアナス勤務。木工職人。1974(昭和49)年生まれ、32歳。大阪府守口市出身。京都造形芸術大卒。
大阪市内の舞台芸術会社で舞台セットづくりなどをしていました。その後阿寒湖温泉の民芸品店で働きながら本道移住を模索。北見高等技術専門学院で木工技術を習得しました。
2005年10月、記念台紙付き住民票の届け出第1号。4年目。家具製作一級技能士。職業訓練指導員。



「今、生き生きと」は休載します。次回2月号には、東川アームレスリングクラブの金子昌昭さんが登場します。楽しみに。